

2019年は日本とギリシャが外交関係を結んで120年になります。それを記念して、国立コルフ・アジア美術館長デスピナ・ゼルニオティ氏と、国立女子大学教授の木戸雅子氏による講演会を行います。

国立コルフ・アジア美術館は、1890年代から1910年代に外交官であったグレゴリオス・マノスという人物がウィーンやパリで集めた日本美術作品を所蔵するギリシャ唯一の東洋美術館です。館長であるゼルニオティ氏は、ギリシャにおける日本文化・芸術の理解促進に貢献してきたこれまでの功績により、平成30年度外務大臣表彰を受賞しました。また、木戸氏は、ポストビザンティン美術の専門家として、サラミナ島にあるパナギア・ファネロメニ修道院聖堂を日本の資金によって修復させ、その図像プログラムの研究をしています。その功績からサラミナ名誉市民の称号が授与されました。

本講演会では、ギリシャにおける日本美術の研究と日本人の手によるギリシャの教会堂修復事業という、2つの国の美術に関する重要な仕事を紹介します。国立西洋美術館では、2020年東京オリンピック・パラリンピックの時期に開催する企画展において、古代ギリシャのオリンピックに関わる作品をギリシャから出品していただく予定です。

2019年の修好120周年記念の年のみならず、その後も引き続き豊かな文化交流が続くことを願い、この講演会を開催します。

講演者

デスピナ・ゼルニオティ  
(国立コルフ・アジア美術館長)

木戸雅子  
(国立女子大学教授)



国立コルフ・アジア美術館



# 「日本とギリシャ」 それぞれの文化遺産の保存と修復 コルフ島とサラミナ島

2019年8月31日(土) 14:00-17:00 ※日英同時通訳付き

Saturday 31 August 2019, 14:00 - 17:00

\*Lectures will be presented in either English and Japanese with simultaneous interpretation to the other language provided.

国立西洋美術館講堂(地下2階)

Auditorium, The National Museum of Western Art, Tokyo (B2 floor)

先着130名：聴講無料

当日12:00より、館内インフォメーションにて、お一人につき一枚聴講券を配付します。会場へは、開演の30分前からご入場いただけます(整理番号順)。

Each lecture limited to 130 visitors, on a first-come, first-in basis. Lectures are free. Pick up lecture tickets (one per person) at the Information Desk, starting at 12:00 noon on the day of the event. The Auditorium will open 30 minutes prior to the start time and visitors will be admitted in lecture ticket number order.



主催：国立西洋美術館  
助成：公益財団法人石橋財団  
後援：ギリシャ大使館、日本ギリシャ協会

## 「日本とギリシャ：それぞれの文化遺産の保存と修復－コルフ島とサラミナ島」

The 120th Anniversary Lectures Japan and Greece:  
Preservation and Restoration of Each Cultural Heritage. Corfu and Salamina日時 2019年8月31日(土) 14:00-17:00  
場所 国立西洋美術館講堂（地下2階）

## Timetable

1 14:00 ~ 14:10 /10 min.

開会挨拶 Opening Remarks

馬 渕 明 子 (国立西洋美術館長)

Akiko Mabuchi (Director, National Museum of Western Art)

コンスタンティン・カキュシス 閣下 (駐日ギリシャ大使館 特命全権大使)

His Excellency Mr. Constantin Cakioussis

Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of Greece to Japan

講演 1 Lecture 1

2 14:10 ~ 15:30 /80 min.

「コルフ・アジア美術館との出会い」

デスピナ・ゼルニオティ (国立コルフ・アジア美術館長)

*Encountering the Corfu Museum of Asian Art*

Despina Zernioti CMG (Director, Corfu Museum of Asian Art, Greece)

コルフ・アジア美術館は日本の美術品 7,500 点を含む 15,000 点を超えるコレクションを誇っている。2008 年、小林忠教授率いる調査団がコルフに集まり、当館が所蔵する版画と肉筆画の徹底的な調査をおこなった結果、肉筆画のひとつが東洲斎写楽の真作であることが明らかとなった。多くの日本人研究者が関わった本調査の様子や、その後の研究に及ぼした影響について紹介する。

The Corfu Museum of Asian Art is home to more than 15,000 works, including 7,500 examples of Japanese art. In 2008 Professor Tadashi Kobayashi and his team visited the museum, where they conducted a detailed examination of the Japanese prints and paintings in the museum's collection. This survey confirmed that one of the paintings in Corfu is an authentic work by Tōshūsai Sharaku. This lecture will introduce details of that survey which involved numerous Japanese scholars, and consider how the results of that survey influenced later research.



東洲斎写楽 「四代目松本幸四郎の加古川本藏と松本米三郎の小浪」 扇面肉筆 寛政七年(1795年)  
国立コルフ・アジア美術館

講演 2 Lecture 2

3 15:30 ~ 16:50 /80 min.

「パナギア・ファネロメニ修道院聖堂壁画の修復

－日本とギリシャの共同研究の成果－」

木 戸 雅 子 (共立女子大学教授)

*Conservation of the Frescoes in the Monastery Panagia Phaneromeni: Results of a Joint Japanese-Greek Study*

Masako Kido (Professor, Kyoritsu Women's University)

サラミナ島（ギリシャ）にあるパナギア・ファネロメニ修道院聖堂の壁画（1735 年ゲオルギオス・マルク筆）の修復調査を日本とギリシャで共同研究を行った（2007～2013 年）。主に日本の科学研究費による修復で明らかになった 3,000 以上の場面を有する壁画の全貌と日本とギリシャの学術交流の現場について報告する。

From 2007 to 2013 a team of specialists from Japan and Greece conducted a joint conservation study of the frescoes painted in 1735 by Georgios Markos in the Monastery Panagia Phaneromeni on Salamina, Greece. This lecture will provide an overview of these frescoes, including the more than 3,000 scenes newly revealed by this conservation work conducted primarily under the auspices of Japanese KAKENHI funding, and also report on the current state of Japanese-Greek scholarly interchange.



ゲオルギオス・マルク「ブラディテラの聖母と大天使」  
パナギア・ファネロメニ修道院聖堂主祭壇壁画  
1735年 サラミナ島

4 16:50 ~ 17:00 /10 min.

質疑応答 Q&amp;A